

子ども食堂で地域と連携 コメ屋ができることと実践

学びの機会創出にも尽力

大阪府吹田市／お米の専門店 つねもと商店

大阪府吹田市の米の専門店つねもと商店COO・常本泰志さんは一昨年、「米流通評論家」としての活動を開始。ラジオ出演などをこなし、自身のホームページ(<http://www.tsunemoto-rice.com>)を通じてコメ政策への警鐘やコメ流通の矛盾点、コメ消費の実情、食育などコメをめぐる環境について持論を展開している。

そんな常本さんは、「コメ屋ができること」をコンセプトに社会貢献を模索。一昨年から「子ども食堂」に関する活動に取り組んでいる。きっかけは地元・吹田市のコミュニティカフェさたけん家との



活動に取り組む常本泰志さん

共催イベント「おにぎりアクション2016」だった。同イベントは、おにぎりの写真を「テーブルフォートゥー」のサイト(<http://jp.tablefor2.org/>)に送ると、写真の枚数×5人分の給食が発展途上国の子どもたちに送られるという取り組み。当時約60人が参加し、130人に給食が贈られた。

別写真は、「ゆめのみプロジェクト」(<http://ameblo.jp/yumenomi-pj>)の子どもたち(小学生)が接客、配膳のお手伝いをしたようすを写したもの。常本さんが提供したコメは福島会津コシヒカリ特裁米(通常店頭価格が¥410円(税込))で、JAさが提供の味付け海苔のおにぎりを食べてもらい、「ご飯」のうまさを直接感じてもらったという。

そもそこの取り組みは、吹田市議会議員、その他関係者の協力で、吹田市佐竹台にある地域コミュニティー・佐竹台スマイルプロジェクト「さたけん家」(<http://satakenchi.com/>)を紹介してもらい、ゆめのみプロジェクトの子どもたちと実現した。

イベントに際して常本さんは、さたけん家の責任者・水木千代美さんとお互い